

ワーク・ライフ・バランス「男女ともに暮らしやすい奈良県を目指して」 ～パネルディスカッション&パパカ・男性の家事力UP大作戦～ (報告)

団体名 市民生活協同組合ならこーぷ

【開催趣旨・目的】

「女性の就業率」「管理的職業従事者の女性割合」「育児期の女性労働力率」等、全国的に見て低い水準の奈良県において、男女の暮らし方・働き方に対する意識の改革を行い、それを教育の場から中高年世代に至るまで幅広い年代の共通認識とすることを目指す。

それにより、様々な年齢・立場の方が集まる地域のコミュニティづくりを行い、奈良県の活性化に寄与します。

【シンポジウム等の名称・テーマ】

ワーク・ライフ・バランス「男女ともに暮らしやすい奈良県を目指して」
～パネルディスカッション&パパカ・男性の家事力UP大作戦～

【日時】平成26年10月18日（土）

【場所】奈良ロイヤルホテル（鳳凰の間・朱雀の間）

【参加者数】118名（女性71名・男性33名、お子様14名）

【プログラム】

・パネルディスカッション（10：30～12：00）

「変えよう！ー男女がより暮らしやすい奈良へー 男女共同参画実践事例から見る奈良の未来像」

・展示・体験・相談ブース（10：00～14：30で随時）

男女共同参画と奈良県の現状、イクメンイクジイ写真展示、男性の家事体験、

親子遊びコーナー、健康チェックコーナー、保育・介護・ライフプラン相談コーナー、子育て支援コーナー、夕食宅配試食コーナー

【参加者からの主な意見】

- ・パネルディスカッションは様々な立場からの取組み・体験・意見があり男女の関わりについて考えることができた。
- ・各ブースは手作り感があり、特に奈良県の現状のパネル展示はわかりやすかった。
- ・会場が広くその割に参加人数が少なかったのが寂しく感じた。
- ・奈良独自の地域性をもっと前面に出してほうが良かった。

【シンポジウム等を通して得た成果（効果）と課題】

奈良県で男女共同参画における男女の意識を変えるという趣旨をかかげてイベントの開催自体が大きな前進であったが、広報や会場設定については参加者の目線で開催意図や参加対象をわかりやすく表現する必要性を感じた。今回は育児参加についての色合いが濃く、男女共同参画の様々な側面を総合的に捉える事ができるように取り組んでいく必要がある。また、組織内の効果としては実行委員会として参加した職員が男女共同参画について考える機会となり、公私ともに意識を行動に変えていくきっかけとなった。

【今後の課題】

今回参加された方はこれまでも男女共同参画の意識の高い方が多く、あまり関心の無かつ

た方への働き掛けがポイントとなるため、目標とする男女の意識の改革については、このような啓蒙・学習の取組みを継続していくことが重要であると考えます。「男女共同参画」は家庭、職場において身近な問題で、老若男女を問わず考え語り合えるテーマなので教育現場を含め地道な取組みを継続するとともに、今回のようにきっかけづくりとして「奈良県の男女共同参画を考える場」の提供が必要である。

【当日の様子】

パネルディスカッションでは、コーディネーターに奈良県男女共同参画県民会議会長の音田昌子氏をお招きし、奈良中央信用金庫理事長・高田知彦氏、NPO 法人子育てすこやかサークル参与・森章浩氏、NPO 法人パパちから応援隊理事長・赤松邦子氏、ならコープ・中野素子副理事長の4名のパネリストによって実際の取組みを交えて奈良県の男女の現状・将来にむけての課題がわかりやすくディスカッションされました。



各種体験ブースではご応募いただいたイクメン写真の展示をはじめ、男性の家事体験など行ったほか、「男女共同参画研究会いこ〜る」による男女共同参画についての学習、「パパちから応援隊」による親子遊び、「子育てすこやかサークル」による保育相談、「協同福祉会」による介護相談、「奈良県医療福祉生協」による健康チェック、ならコープによる子育て支援や夕食宅配試食、ライフプラン相談など手作りながらも様々な企画が行われました。



W-STEM NetWorking Conference2014

(報告)

団体名：特定NPO法人 J-Win

【開催趣旨・目的】

内閣府、男女共同参画推進連携会議とNPO法人J-Winは、日本の女性技術者が世代と分野を超えて交流・相互研鑽することで、新しい女性技術者ネットワークを構築することを目指し、「J-Win W-STEM Networking Conference 2014」を開催しました。

※STEMとは「Science, Technology, Engineering, Mathematics (科学、技術、工業、数学)」の頭文字をとったものです。先頭のWはWomenの頭文字です。

経営層、企業や組織等の最前線で活躍する女性技術者、女性技術者の育成に係わる企業・大学関係者、これから社会で働こうとしている学生など、様々な背景を持つ参加者が一同に集い、講演やワークショップ等を通じて、未来を作る女性技術者のリーダーシップについて語り合いました。

【シンポジウム等の名称・テーマ】

「W-STEM NetWorking Conference 2014」

【日時】

平成26年11月15日(土) 10:00～17:30

【場所】

お茶の水女子大学(東京都文京区大塚2-1-1)

【参加者数】 412人

【プログラム】

10:00-13:00 挨拶、基調講演

主催者挨拶 J-Win 理事長 内永ゆか子

共催者挨拶 お茶の水女子大学学長 羽入佐和子

基調講演1-「ロボット社会と未来社会」

千葉工業大学常任理事未来ロボット技術開発センター所長 古田貴之氏

基調講演2-「～あなたらしく～技術系女性に求められる真のリーダーシップとは」

SWE(全米女性技術者団体)イクゼクティブ・ディレクター兼CEO Karen Horting 氏

米国ハネウエル・エアロスペース社シニア・プロジェクト・エンジニア、SWE2015 プレゼンター

Elizabeth Bierman 氏

13:00-14:30 ランチ on ネットワーキング

14:30-16:45 分科会(8分科会)

17:00-17:30 閉会挨拶 技術同友会 代表理事 立川敬二氏

※ポスターセッション「企業、大学等のポスター展示、質疑応答」を並行開催

【参加者からの主な意見】

・今後のキャリアプランを考えるいい機会となった。仕事を続けていくうえで、前向きな気持

ちになれた。

- ・女性が活躍するということに対して、学生から経営層の方までが議論していることに対し心強く思った上に、自分のこれからのあり方についても考えさせていただく良い機会だった。
- ・リケジョの必要性が高まっている状況で、学生と企業をつなぐ機会として有意義であった。
- ・女性がいかに社会に進出できていないか、その現状を知ることができた。
- ・多くの方が参加しておられ、他分野の様々なお話やポスターがあって良かったと思う。大変勉強になった。
- ・普段知りたくてもどこで誰に聞けばよいか分からなかったことにいろんな意見をもらえたので良かった。
- ・日本と同じように海外でも課題があることが分かり、良い刺激になった。

【シンポジウム等を通して得た成果（効果）と課題】

- ・技術系女性の学生・社会人の交流をターゲットとした初めての試みであったが、アンケート回答者の75%から満足したとの回答があり、予想以上の好反響であった。アンケート結果からもリケジョならではの問題点（身近なロールモデルやネットワーキング不足）が上がっており、今後もこのような場の提供が必要であると改めて実感した。
- ・社会人と学生の参加者比率が4：1であり、社会人と学生の交流という面では満足いく結果とはならなかった。学生の集客について課題が残った。

【今後の課題】

- ・今回は、「J-Win W-STEM Networking」の立ち上げイベントとして開催であり、今後の継続的な活動体制と内容を検討中





働くことについて考える～ウィメンズラウンドテーブル in 宮崎

(報告)

団体名：国立大学法人 宮崎大学、高等教育コンソーシアム宮崎、宮崎県

【開催趣旨・目的】

わが国では、国の成長戦略の中核に「女性の活躍促進」が掲げられ、各地で官民一体となった取り組みが進んでいる。本県においても、平成 22 年に設置された「宮崎県女性の活躍サポート連絡協議会」で関係機関による情報共有・意見交換が行われているが、民間企業も巻き込んだ機運醸成には至っていない。

そのため、文部科学省による外部資金を呼び水に、女性研究者支援や男女共同参画推進に取り組んできた高等教育機関として、本企画を通じて、宮崎県における女性の積極的な登用・活用へ向けた機運を高める場を設け、さまざまな環境にある女性自身をエンカレッジすること、本県において女性が働くことの現状・課題を明らかにすることを目的とする。

【シンポジウム等の名称・テーマ】

「働くことについて考える～ウィメンズラウンドテーブル in 宮崎」

【日時】

平成 26 年 12 月 13 日（土）13:00～17:00（開場 12:30）

【場所】

宮崎大学 宮崎大学創立 330 記念交流会館コンベンションホール 他

【参加者数】 約 120 名

【プログラム】

13:00 開会

13:05～13:15 挨拶 菅沼龍夫 宮崎大学学長

酒井香世子 内閣府男女共同参画局総務課政策企画調整官

13:15～15:10 【第 1 部】パネルディスカッション

「Workers, be ambitious! ～わたしがはたらく、わたしを生きる」

パネリスト：加納ひろみ（きぐるみビズ取締役工場長）／桑畑夏生（NPO 法人宮崎文化本舗インターンシップ事業担当）／林弘子（宮崎公立大学学長）福嶋清美（宮崎県商工観光労働部地域雇用対策室長）宮田理恵（カテナ株式会社代表取締役）

コーディネーター：中川美香（宮崎日日新聞社文化部次長）

15:10～15:30 休憩・移動

15:30～17:00 【第 2 部】ワークショップ

「セクハラ、パワハラ、マタハラのない社会を実現するために」（林弘子氏）

「自分らしい働き方を探そう～今よりも一歩前へ!」（宮田理恵氏）

「おしゃべりしましょう、仕事と子育て～暮らしにスパイスを」（中川美香氏）

「みんなで happy! ～働きやすい職場の作り方」（加納ひろみ氏）

「コラボレーションで拓くあなたの可能性」(桑畑夏生氏)

「組織の中でつくるキャリア、つなげるキャリア」(福島清美氏)

「理系っておもしろい！～女性研究者のススメ」

(宮崎大学 伊達紫副学長、ティティズイン准教授)

※ワークショップでは、ファシリテーターとして宮崎大学女性教職員の協力を得た。

【参加者からの主な意見】

- スーパースターのように輝く皆さんですが、じっくりお話を聞いてみると、同じように憧れたり、困ったりされたんだなと思い、とても身近に感じました。
- 働くということが不安な部分がありましたが、なんだか楽しそうだと思えた。
- 第1部の話も面白かったが、第2部のワークショップでは、経営者、県庁職員、学生などいろいろな意見・アイデアが聞けてよかったです。
- 今後の第2弾、3弾を企画してほしい。男性の参加も促してほしい。
- 今までとは違う考え方を身につけることができました。ワークショップでは自分とは違う立場の方の意見を聞くことができ、新しいものの捉え方を知ることができました。そして、参加している方には素晴らしい行動を起こしている方もいて、自分もそのようにアクションをしていこうと思いました。
- パネラーはとても個性的で素晴らしい人達ばかりでしたが、人数としては4人位がちょうどいいかと思います。
- パネリストの方々が個人の体験を赤裸々に語って下さったことが、「社会的地位にある成功している」人にもある「今の自分を形作った何か」をリアルに感じ理解するために役立った。
- 元気に仕事をするコトに賛成する気持ちはありますが、今現在の男性と女性の立場が入れ替わるだけにならない様、バランスを保つ難しさがある気がしました。
- いろいろな立場の女性達が一堂に会しての議論はとても興味深かった。経験を語り共有する営みは溶け合い、化学変化をして、次の何かにつながるのだなあと実感できた。
- 得た物、大事な言葉が多すぎて、ゆっくり家でメモを見直したい。朝早く起きる事から始めようかと思っています。管理職への不安、少し減りました。回答いただきありがとうございます。

【シンポジウム等を通して得た成果（効果）と課題】

参加者の大半が学外者であったことから、男女共同参画推進に関する議論を学内にとどまらず地域へ向けて広く発信することができた点は特に大きな成果であった。また、ファシリテーターとして本学女性教職員の協力を得たことで、本学教職員をエンカレッジする機会としても有効に働いたと認識している。本シンポジウムでの議論を通じて、性別にかかわらず、働く人の多くがそれぞれの場面での悩みや問題を抱えていることが明らかとなった。今後、学内教職員への意識啓発はもちろん、本学学生に対するキャリア教育の充実にも今回の成果を生かしたい。また、今回培った学外関係者とのネットワークも生かしながら積極的な情報発信を進めたい。

【今後の課題】

今回のシンポジウムは非常に好評であり、参加者アンケートでも第2弾の開催を期待する声も寄せられている。宮崎県が設置する「女性の活躍サポート推進連絡協議会」などでも、さまざまな団体が連携して取り組みが展開されていることから、民間企業も含む学外関係団体等と密接に情報を交わしながら、男女共同参画推進の視点に立った啓発の機会を継続的に開催することについて、検討を進めていきたい。



パネルディスカッション



「コラボレーションで拓くあなたの可能性」



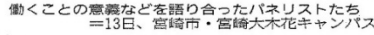
「みんなで happy！～働きやすい職場の作り方」



「自分らしい働き方を探そう～今よりも一歩前へ！」

県内のさまざまな運動・文化が、富岡をむすびつける「ボジョム運動」に力をつけてきた。富岡大県主催の Workers, be a flower in Japan は 13 日開いた。この際、富岡大県主催の Workers, be a flower in Japan では、登壇者 5 人が、富岡を思いについて本著語り合い、参加した 120 名を催した。

落ち込んだことを振り返り、「自分は何と戦っていたのか。休む」とはできなかったはずな



のに」と後悔を語った。さらに「(家族など)周囲の人が悲しい思いをするのが苦しかった」と述べ、この経験などを基に、自身の職場で「残業、有休消化促進に取り組んでいる」と説明。労働環境整備の必要性を強調した。

近な問題から改善しなければ」と解説。また、「社会で少し変化があつても教育、学問の動きは鈍く、研究分野の女性比率は低い。この現状が続けば日本は世界から取り残される」と指摘した。

ばいいと思ったら、気が柔になった」と紹介。「後輩には少しでも過ごしやすい幸せのリレーをしたい」と話し、県庁内で子育てとの両立などを相談し合う「育ナビ」という活動をしていると報告した。

を述懐し、「限られた時間でいい仕事をするには、知識を高め仕事の質を上げるしかない。産地に足を運ぶなどして徹底的に学び、その過程で働

月 21 日

る。年を取ることを恐れないで、いつでも学べるし、やりたい時が旬だと呼び掛けた。

参加した宮崎北高3年小野圭絵さん（宮崎市）（17）は「社会に出たときのことを想像しながら聞いた。困難に向

「学生のうちにすべきことは」という問いに、大学時代に恩師に勧められた地域活動を通し、やりたいことを見つけたという桑畑さんは「いか

あなたが創る未来に向けて～理系の資格と仕事～

(報告)

団体名：一般社団法人 日本女性科学者の会

【開催趣旨・目的】

本会は 50 年以上にわたり「女性科学者の友好を深め、各研究分野の知識の交換を図る」目的で活動を続けてきた。この本会の持つ豊富な人的ネットワークを活用し、一昨年は、女性科学者が自他共に価値あるキャリアであることを次世代に伝える趣旨のもと「サイエンスネットワークを広げよう」を開催した。昨年は、東北支援も意図して、東北地域の女子中高生を対象に理系の学問と仕事を紹介する「理系の仕事～いつか未来を創るあなたへ～」を開催した。いずれも、研究者と中高生、大学学部生、大学院生を交えた双方向のディスカッションが大変好評で、参加者と主催側双方に大きな達成感を与えることができた。今回もこれまで開催してきた企画の知見を活かし、より多くの女子中高生が、就業の継続を視野に入れた理系進学を前向きに検討するための、決め細やかな情報提供を行うことを目指す。

安倍政権が 202030 の数値目標と共に女性活躍を基本成長戦略の 1 つに掲げた結果、女性の就業率を示す M 字カーブは少しずつ改善されつつあるが、その一方で 20 代を中心とする若い女性の専業主婦嗜好は増加を続けているという現状もある。その原因としては、日本社会において女性が就業し続けることの難しさなどもあると思われるが、成人したら就業して社会貢献する、ということの意義や大切さ、社会人としての責任、などに関する教育が不足していることも関係があると思われる。

そこで今回は、女子中高生や若い女子学生に対して、女性が社会人として職業を持ち、働き続けることの必要性・重要性を啓発した上で、それでも、出産・育児、あるいは介護などで職場を離れる可能性が高いことを踏まえ、復職のしやすさの 1 つの目安となる「資格」に焦点を当て、それらの資格の保持者による職業紹介を主とした講演会を企画する。特に今回は、超高齢化社会における地域での活躍のしやすさも考慮して、地域医療への貢献の観点から医療・介護関連職を中心に複数の有資格者を集め、幅広く、進路選択から大学・専門学校での履修、そして就業の導入となるような講演を企画する。

もちろん離職の可能性は出産や育児だけではない。社会のグローバル化の推進によって海外留学や新しい資格取得などで職場を離れる可能性も増えてきている。また、資格がなければ就業の継続や復職が極めて困難であるというわけでもない。本企画では、まだ社会経験の無い若い女子学生たちに誤解を与えることが無いよう、バランス良く理系の仕事を紹介し、理系進学と就業への夢や希望が持てるように、講演後は聴衆参加型のグループ討議の時間を持ち、学生からの質疑に講演者および講演協力者が丁寧に対応する時間を十分に確保する。今回は東海地域での開催を計画している。名古屋を中心とする東海地域は自動車産業の発達などで、技術系の求人が多く、理系進学の意識が高い地域の 1 つであるので、本企画の効果を最大限に発揮できると考える。

【シンポジウム等の名称・テーマ】

あなたが創る未来に向けて～理系の資格と仕事～

【日時】 平成 26 年 12 月 21 日（日）10:00～16:30

【場所】 愛知大学名古屋キャンパス

【参加者数】 70 名

【プログラム】(司会進行:永澤秀子 日本女性科学者の会東海ブロック長、岐阜薬科大学教授)

10:00～ 開会 : 注意事項など

10:00～10:05 挨拶 (大倉多美子 日本女性科学者の会 会長)

10:05～10:35 第1部 講演「理系の楽しさ、仕事の喜び」

嘉田由紀子氏「私の歩んだ道」(前滋賀県知事、琵琶湖成蹊スポーツ大学学長)

10:35～10:55 寺町ひとみ氏「薬の専門家“薬剤師”をめざして!!」(岐阜薬科大学)

10:55～11:15 清島真理子氏「医療における女性医師の立場と役割」(岐阜大学)

11:15～11:25 (休憩10分)

11:25～11:45 桑山真紀氏「診療放射線技師抜きでは医療は語れない!」(刈谷豊田病院レントゲン部副部長)

11:45～12:05 浜田恵美子氏「企業、メーカーにおける“私の強み”の作り方」(名古屋工業大学)

12:05～12:25 池田かおり氏「製薬会社で医療品を開発する」(塩野義製薬株式会社生産戦略部長、薬剤師)

12:25～12:45 大塚 悦子氏「適材適所から新たな自分を発見」(特殊陶業株式会社経営管理本部 経理部)

12:45～13:30 ランチ休憩

第2部・第3部司会 功刀由紀子 (日本女性科学者の会関西ブロック長、愛知大学教授)

13:30～14:10 第2部

グループディスカッション1回目

: 総合リーダー 近藤科江 (日本女性科学者の会理事、東京工業大学教授)

「あなたが創る未来について」課題 ①働く意義 ②10年後の自分は? ③なりたい自分 ④実現のためには ⑤今(中高生の時)からやるべきこと
7～12(参加者数による)の円卓テーブルにてディスカッション、講師席を固定し学生メンバーは2～3回程度入れ替え予定。

14:10～14:20 休憩と講師チェンジ

14:20～15:00 グループ討議2回目

: 総合リーダー 小杉尚子(日本女性科学者の会会員、高崎福祉大学)

15:00～15:20 休憩と移動

15:20～16:20 第3部 各グループ学生発表

16:20～16:30 最終総括(大倉多美子)&閉会挨拶(酒井香世子 内閣府男女共同参画局政策企画調査官)

【参加者からの主な意見】

〔第1部講演〕

- ・知らない仕事がたくさんある事を知って、とても興味が湧いた。自分でも調べてみたい。
- ・女性が社会へ参加するため、実際に活動している方の話を聞く事で、夢を膨らませることができたと思います。
- ・とても興味が深まる内容ばかりでした。学生時代にこのような講演を聞きたかったとも思いました。社会で働く女性の話を聞き、今後の自分の人生について改めて考える機会となりました。
- ・社会に出て5年になりますが、今また自分の人生、仕事の考え方を再考するきっかけとなりました（自分だけのきっかけだけではなく、周囲と話し合うきっかけもあると思います）。医療系が多いですが、他の分野もあるのもっといいのになと思いました。
- ・様々な仕事につかれている女性のお話が聞けて、明日からの仕事の励みになりました。
- ・最後まで参加し、学生達のしっかりした発表を聞く事ができ、良かった。女性は世代を超えても温かい交流ができる。特性かしら。
- ・とても学ぶことがたくさんあり、役に立ちました。
- ・講演会やる人が多すぎるのに対して、時間に余裕がない。
- ・自分の人生設計について大いに参考となりました。
- ・様々な分野からのお話が聞けて良かったです。視野が広がりました。
- ・学部の説明など、大変参考になった。

〔第2部講演〕

- ・自分の意見がたくさん言えてよかった。
- ・視野が広がりました。参加して良かったと思います。
- ・ファシリテーター、記録の学生が上手でした。若い学生と交流でき、いい機会でした。
- ・最終的に結果が出ない。
- ・初対面の人と意見交換できるのはとても良かった。
- ・中高生が少ない。
- ・若い人の真っすぐな心意気をとてもたくましく思いました。
- ・本来の対象の中高生が少なかった。良いイベントなのでもっと周知をしてみたらどうか。

【シンポジウム等を通して得た成果（効果）と課題】

1. シンポジウムで、女性が働く意味について、改めて考えさせられた。高い教育を受けた女性を活用しなければ、国の損失になり、ひいては国力の低下につながるという事が、中高生や一緒に参加していた保護者や学校関係者にも、身近な例を通して具体的に理解してもらえたのではないと思う。中高生はもちろんのこと、中学高校の教師にも、今回のようなメッセージをきちんと伝える機会を増やし、国民全体の意識を変えなければ、男女共同参画の更なる推進は難しいと思う。小学生高学年をも対象にして良いくらいであると思った。

第2部グループ討議で、同じグループに既に就職が決まっている高校3年生がおり、「高校を出てすぐに就職する学生が、仕事についてきちんとした考えを持っている」ことを知り、当然と思いながらも少し感動した。大学に入っても仕事に向き合っていない学生を、少なからず見

てきたので、とても新鮮な気持ちでした。男女を問わず、働くことの意義を考える機会を作ること、子供たちが自分たちの将来をしっかりと考える力を養い、社会に対する意識を変える事に繋がると思った。

2. これまで、女子中高生の理系進学支援を企画したり、他団体による企画に参加したりした経験があるが、大学での授業や実習も含めて資格取得やキャリアプランが説明されたものは無かったように思う。そういう意味で、学生も参考になったと思うと共に、自分自身も、女子中高生に理系進学の相談を受けた場合には、これまで以上に参考になる情報を提供できるようになったと思う。キャリアが、医療系に偏り過ぎていた部分は改善が必要だと思うが、内容としては非常に良かったと考える。

3. 学生主体のグループディスカッションは非常に良かったと思う。特に、薬学や医療関係の学生の、グループディスカッションをリードしてまとめていく能力の高さは特筆すべきものがあると思われる。これは、当該学部・学科が業務の性質を踏まえて、対人スキルや業務に対する心構えを見つめる力の向上に尽力している証拠・結果であろう。講演会に参加した講師からも、同じようなグループディスカッションを院内でやってみたいので資料を頂けないかとの問合せがあったことも、このディスカッションの質が高かったことを示していると思われる。今後は、日本女性科学者の会(SJWS)としては、学生(大学生、大学院生)にグループディスカッションをファシリテートする機会を提供すると共に、後進を指導するスキルをSJWSのメンバーが身に付けていくことも視野に入れて活動していくと良いのではないかなと思った。

【今後の課題】

1. 今回は、学生集めに苦労した。組織に呼びかけても、学生まで案内が届いていない事が分かったので、今後このような呼びかけをする場合は、直接学生に呼びかける、または、学生に接している先生に直接協力を仰ぐ方法を考え、早めに行動する必要があると考える。

2. スケジュールがタイト過ぎる。応募した企画の採否や請負業者の確定までに時間がかかり過ぎるため、企画そのものの準備や具体的な検討が困難な時期が長く、結果として企画開催直前は多忙を極めた。企画団体の中には、企画の実施とは別の本来業務があって、企画の実施はボランティアで遂行している団体もあると思うので、そういう団体の人たちも、本来業務と並行して時間をやりくりしながら企画を計画・遂行できる程度には時間的な余裕を持たせる配慮が必要である。

3. 請負業者を価格だけの入札で決めるべきではない。入札価格に加えて、過去の実績や、落札した場合の体制案なども考慮して業者を決めないと、価格を抑えることだけに注力した能力の低い業者が落札する危険性がある。

4. 内閣府との共催事業であるのに、共催相手である企画団体の中には財源が乏しいボランティアで成り立っている団体もあり、旅費を含めた経費計画で企画採否の審議を行い、企画を採択したらその経費計画の範囲内でせめて打ち合わせ会議のための旅費および準備にかかる諸雑費くらいは支出できるようにすべきである。開催場所にもよるが準備のための活動経費が全て個人の持ち出しになってしまうため。

5. 今回のシンポジウムは貴重な経験となったので、講演者の講演内容、学生へのメッセージ集、学生発表の内容、アンケート(統計を含む)などを冊子とした報告集を作成し、日本女性科学者の会の事業の報告として残す予定である。

地域とつながって研究者の研究力を育てよう ～活かしてみよう、あなたのこれまでのキャリア～ (報告)

団体名：国立大学法人 東京医科歯科大学

【開催趣旨・目的】

「研究者の男女共同参画」を推進する上で「研究と家庭との両立」は大きな課題の一つである。このことは研究者としてのキャリア形成の阻害要因や、職場におけるロールモデルの不足や女性活躍推進へのモチベーション低下をもたらすと考えられる。内閣府の「第四期科学技術基本計画」において、医・歯・薬学系の女性研究者比率を 30%に上げる数値目標も設定されている現在、女性研究者の育児・介護等のライフイベントを支え、キャリアを形成していく取り組みは地域社会全体における喫緊の課題である。

そこで研究者の育児・介護とキャリア形成を支えるため、地域内の医学系大学、自治体、企業が相互に連携していく可能性を検討することを目的に本シンポジウムを開催した。地域の人的・物的資源を活かし、育児・介護を支援することの具体的な効果について検討するとともに、ライフイベント中の女性研究者がどのように研究と育児・介護とを両立しているか、ロールモデルとしての紹介を行い、「女性研究者の持つ研究力」をアピールする場とすることも目的とした。また女性が活躍していくためには、男性の家事・育児参加への意識促進も不可欠である。そのため、家事・育児に積極的に参加している男性研究者をロールモデルとして紹介し、働き方の提案や意識の持ち方について検討することも目的とした。

【シンポジウム等の名称・テーマ】

「地域とつながって研究者の研究力を育てよう～活かしてみよう、あなたのこれまでのキャリア～」

【日時】

平成 26 年 12 月 23 日（火・祝）

【場所】

東京医科歯科大学 湯島地区 M&D タワー2F 鈴木章夫記念講堂（東京都文京区）

【参加者数】 63 名

【プログラム】

【第 I 部 講演】

開会挨拶 宮崎 泰成氏（東京医科歯科大学 学生支援・保健管理機構長）

基調講演 「子育てしやすい地域づくりとは～次世代育成に向けて～」

成澤 廣修氏（文京区長）

講演 1 「男性が育児参加をするために提案したい働き方」

青野 慶久氏（サイボウズ株式会社 代表取締役社長）

講演 2 「地域と医学系大学で連携したファミリーサポート事業」

野原 理子氏（東京女子医科大学医学部衛生学公衆衛生学（一）教室 講師）

【第Ⅱ部 事例報告・ワークショップほか】

座長：平澤 恵理氏（順天堂大学老人性疾患病態・治療研究センター 前任准教授）

○事例報告1「研究とライフイベントとの両立-生活習慣病のメカニズムの解明と新しい治療法の開発を目指して-」

大石 由美子氏（東京医科歯科大学 難治疾患研究所 先端分子医学研究部門 細胞分子医学分野 テニユアトラック准教授）

○事例報告2「研究とライフイベントとの両立-子育てしながら研究、研究しながら子育て-」

田中 陽子氏（東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科 システム発生・再生医学分野特任助教）

○事例報告3「遺伝性腎疾患の臨床と研究-母親の目線を生かして」

河野 春奈氏（順天堂大学大学院 医学研究科泌尿器外科学講座 助手）

ワークショップ「育児と介護、実際にやってみて分かったこと」

座長：有馬 牧子氏（東京医科歯科大学 学生支援・保健管理機構 学生・女性支援 センター 助教）

登壇者：田中 智彦氏（東京医科歯科大学教養部 准教授）、成瀬 妙子氏（東京医科歯科大学難治疾患研究所 分子病態分野 プロジェクト助教）

パネルディスカッション「地域とつながって女性研究者の研究力を育てよう」

コーディネーター：井関 祥子氏（東京医科歯科大学 女性支援専門委員会 委員長）

パネリスト：

前田 美穂氏（日本医科大学 小児科 教授）

塩満 典子氏（宇宙航空研究開発機構・男女共同参画推進室長）

平澤 恵理氏（順天堂大学 老人性疾患病態・治療研究センター 前任准教授）

青野 慶久氏（サイボウズ株式会社 代表取締役社長）

野原 理子氏（東京女子医科大学医学部衛生学公衆衛生学（一）教室 講師）

閉会挨拶 平井 伸英氏（東京医科歯科大学 学生支援・保健管理機構 学生・女性支援センター長）

【参加者からの主な意見】

①シンポジウム全体について

- ・色々な立場からの意見（行政・大学・企業）を聴くことができて有意義でした。
- ・育児があったり介護があったり、元気な独居老人、障害のある独居老人、様々な人、それぞれの生活が維持できる方法を社会全体で考えなければならないと思います。
- ・多くの方のご意見を伺い、働き方・子どもを生むタイミングや環境・様々な考え方などとても参考になりました。ワーキングマザー、ワーキングファーザーの方々から、仕事と育児をいかに両立させたかという生の声を聞くことが出来て良かったです。
- ・地域との連携の重要性を益々実感しました。

②男性の家事・育児参加、ファミリーサポート事業について

- ・男性で育児休業を取得された方々のお話を拝聴し、仕事と育児を両立させることの重要性を確認することができて良かったです。
- ・男性のお話は是非上司に聞いてほしいです。またファミリーサポートの取り組みは素晴らしく、全国に広げたいです。

③介護について

- ・介護が身近に感じました。自分自身の健康管理を考える(寝たきり、生活習慣病など)必要性も感じました。
- ・実際に介護と研究とを両立されているロールモデルの方から話を聞くことができたのは参考になりました。

【シンポジウム等を通して得た成果（効果）と課題】

- ①地域と医学系大学が連携して、育児・介護と研究との両立支援システムの実施に向けた課題が明らかとなった。地域と医療系大学間の好循環システムの構築を提案することが可能となり、今後活用可能な資源を確認することができた。
- ②先行事例として、東京女子医科大学と新宿区がすでに実施しているファミリーサポート事業の有用性や利点を周知することができた。今後は医療系大学と文京区においてもファミリーサポート事業を連携・実施していくことの必要性を周知することができた。
- ③女性研究者が持っている「研究力」をアピールするとともに、育児・介護と研究とを両立しているロールモデルとして登壇者を紹介することができた。また育児と研究との両立において各登壇者が持つ課題を共有することで、これから研究と育児とを両立していくモチベーション意識を高めることができた。
- ④積極的に家事・育児に参加している男性研究者をロールモデルとして紹介することで、今後の男性の働き方や意識の持ち方について具体的な方策を提案することができた。
- ⑤地域の一般住民の方からの参加を得たことで、地域とのかかわりや地域参加意識を活性化し、参加者のセカンドキャリアを見出す支援につなげることができた。

【今後の課題】

- ・集客や広報には事前から準備を行っていたにも関わらず、日程的な問題も含めると実際の参加者は63名と少ない状況であった。そのため今後は開催の日程やタイミングを再度検討する必要がある。参加者のアンケートでは、具体的な日程として平日夕方への開催、あるいは6月や11月頃の開催が提案されていた。
- ・次回開催の際は、学術講演や子供向けのイベントを組み合わせたプログラムにすると、親子で来やすいのでは、という提案が寄せられているため、今後検討を行う予定である。
- ・介護に関する講演や、介護保険制度の利用方法なども知りたいという意見が寄せられていることから、介護に着目したプログラムを開催することも含めて検討する。
- ・ファミリーサポート事業が素晴らしく、今後は地域で育児支援を行うサポーターとなれるよう勉強したい等の意見が寄せられていたことから、ファミリーサポート事業の利用者、および育児サポート提供者からの講演プログラムも含めて検討する。

ビジネスにも運命の赤い糸ってあるんです －WEPs（女性のエンパワーメント原則）の実現に向けて－ （報告）

団体名：国立大学法人お茶の水女子大学
一般社団法人東京ニュービジネス協議会
J300 実行委員会（女性社長.net）

【開催趣旨・目的】

WEPs(女性のエンパワーメント原則)の第5・6原則の実現に向けて

国連の UNWOMEN とグローバルコンパクトが作成した7原則で構成される WEPs(女性のエンパワーメント原則)の第五・第六原則の促進を図るイベントである。署名企業は各原則の遂行に尽くしているが、「ステークホルダーや地域との参画」を謳った第5原則、第6原則は、各社内で実施される管理職の登用促進や教育・研修機会の提供などの取組とは異なり、その活動方法や取組の在り方が模索されている。日本における WEPs の展開を考える際、第5、第6原則の活動方法を検討することは極めて重要であり、それは、WEPs の特徴が「職場だけでなく市場、地域とともに取り組む」ということにあること、さらには、男女共同参画社会の創造と深く関係している。こうした現状に鑑み、本事業では、第5原則のうち「女性の経営者や起業家との取引の発展、取引先や同業者の関与」、第6原則のうち「ステークホルダーや当局、その他の機関との協働促進」にフォーカスする。

本事業では以下の成果が期待される。

- ① WEPs 署名企業や女性のエンパワーメントに関心がある一般の方々と女性起業家との間に接点を生み出すことで、男女共同参画社会の創造と理解を深める機会となる。
- ② 女子学生にとって、女性起業家たちはロールモデルのひとつになる。また、女性起業家の業務を紹介するセッションを通じて、WEPs や女性起業家の業務に深い理解が得られる。
- ③ 女性起業家の業務内容を広く社会に発信し、取引機会を創出するとともに、WEPs 第5、6原則への取組の好事例を発信する。

－本年度で2度目の開催－ 昨年度との違い

■ イベント当日、学生主導での企画による女性起業家事業のプレゼンツアー・商品展示

（参加者が女性起業家の取組に対しより理解を深める）

■ プレゼン参加企業の増枠とプレゼン時間の延長（商談成立増を目指して）

■ 全国（仙台・滋賀・岡山・福岡・熊本）の女性社長をゲストに迎える（地方の女性起業家もクローズアップ）

■ 昨年度のイベントで商談成立をした女性起業家の紹介

■ 後援・協力団体追加による体制強化（参加者のバラエティ増に向け）

お茶の水女子大学・一般社団法人東京ニュービジネス協議会・J300 実行委員会（(株)コラボラボ、(株)ウナギトラベル）に加え、公益財団法人 21 世紀職業財団・(株)日本政策投資銀行、芝浦工業大学が後援・協力団体として新たに参加するなど 初回よりさらにパワーアップさせ、女性起業家・学生・中

小企業・WEPs 署名企業による女性のエンパワーメント促進事業を実施。

【シンポジウム等の名称・テーマ】

「ビジネスにも運命の赤い糸ってあるんですーWEPs(女性のエンパワーメント原則)の実現に向けてー」

【日時】

平成 27 年 1 月 13 日(火)12:30～17:30

【場所】

イトーキ東京イノベーションセンターSYNQA(東京都中央区京橋 3-7-1)

【参加者数】

計 261 名(内訳:女性起業家 103 名、一般企業 121 名、学生 37 名)

【プログラム】

■学生による女性起業家の取組紹介／ツアー・商品展示・アピールボード

イベント 3 か月前より、お茶の水女子大学における WEPs 理解の授業と女性起業家のもとでインターンを体験し事業を理解。

■トークセッション「女性起業家×企業のコラボ先進事例の共有」

「全国各地で活躍する女性起業家たちの取組紹介」

■ワークショップ「大企業×女性起業家で、新ビジネスのアイデア&コラボレーションを創出」

■プレゼンテーション 14 社の大企業からいただいた事前課題に対し女性起業家 57 社がプレゼン

■クロージングセッション 総括発表

【本年度、参加者からの主な意見】

＜参加した大企業＞

「プレゼンセッションに参加。限られた時間の中で、コンパクトにまとめられた資料とご説明に感心いたしました。なかには、新しい機能やサービスをターゲットを絞って作られたご提案もございました。今回は見合わせとなってしまいましたが、このご縁を大切にこのような機会をいただいたことに感謝いたします。」
「プレゼン時間が短く感じた」「地方にも多くの個性豊かな女性起業家がいることが分かった」

＜女性起業家＞

「女性起業家を紹介するため作成された学生資料が素晴らしかった。開催会場が、イベントのイメージと合っていました。カフェやセミナールームを有効に活用してプログラムの進行が工夫されており、とてもスマートに感じました。」「大手企業のアライアンスの進め方を知ることができて良かった。」

＜学生＞

「多くの女性社長とお話できて、とても楽しい時間でした。」「この体験は進路を決めるだけでなくこれから先ずっと私の中に残る、本当に素晴らしいものでした。」「女性社長みなさんのいきいきとしたお姿から、多くのパワーをいただいたように思います。」「同じ学生からもいろいろ学ぶことができて、とても満足しております。自分には出来なかったことを反省しつつ、これからの自分のキャリアについて考えていきたいと思っております。」

【シンポジウム等を通して得た成果(効果)と課題】

■約260名の来場者に、女性起業家の取組を広く知ってもらうきっかけづくりとなりました。

■第五原則の促進に向けた具体的な成果につながった→企業より、後日検討したいが約36%19プラン。

※昨年より60%増となりました。

■企業、女性起業家双方に取引イメージをもってもらうことができた。

・ワークショップには、女性起業家と大企業合わせ約70名が参加。「若者向けビジネス」「世界で戦うビジネス」をテーマに多数のアイデアが生まれ女性起業家と大企業のコラボイメージを深めるきっかけとなった。

・トークセッションでは、「先進事例」と「全国各地で活躍する女性起業家の取組」を共有

■女子学生は、女性起業家の事業を理解することでキャリアの選択肢を増やし、来場者に女性起業家の事業を説明することで自信とスキルアップの機会になった。

・3か月前より、お茶の水女子大学、芝浦工業大学の女子学生が担当企業のもとでインターンを経験。事業の理解を重ね、商品展示方法やツアー方法、PR方法について考えることでスキルアップにつながった。

学生にとって起業家と接し、来場者(大企業含)に対してプレゼンテーションを行う貴重な機会となった。

・WEPs第6原則である「ステークホルダーや地域との参画」。昨年より参加数増の学生(20名→45名)が、企画により深くかかわることでイベント成果の幅が広がった。

【今後の課題】

＜昨年の課題の改善＞

① プレゼン時間増、質疑応答時間を設けることで改善。

② アンケートの回収、学生ツアー終了時、出入口でのスタッフ待機を徹底させ、回収に努めた。

＜今後に向けての課題＞

・より多くの一般参加者に女性起業家の取組を知っていただくため告知の幅を拡げ、参加を促進する。

・学生ツアー:とても評価が高かったが、他のセッションとの時間が重なり、参加可能な時間が短かったとの意見がありました。

・参加者満足度の向上をはかる:参加者同士の交流の時間が少なかった、各セッションの時間が短い、複雑なプログラムにより理解が難しかったなどの声がありました。

・イベントプログラム内容が多岐にわたっており、各セッションの時間が限られていた。評価は高いものの、プログラムをシンプルに構成をする、時間を分けるなど検討をしたい。

性暴力被害の現状と被害者支援について

(報告)

団体名：大阪府男女共同参画推進ネットワーク、大阪府、
大阪府配偶者等からの暴力の防止及び被害者支援ネットワーク
特定 NPO 法人性暴力救援センター・大阪 SACHICO

【開催趣旨・目的】

女性に対する暴力は重大な人権侵害であり、その根絶は男女共同参画社会を形成していく上で克服すべき重点課題である。とりわけ性暴力については、被害者が被害を訴えることを躊躇せずに、被害直後から中・長期にわたる支援を受ける必要があるとともに、性犯罪に対する一般社会の理解が欠かせない。本シンポジウムで、性暴力の現状、被害者に必要な支援・配慮、ワンストップ支援センターの果たす役割等について情報発信することにより、性暴力被害者に対する支援・理解を促進する。

【シンポジウム等の名称・テーマ】

シンポジウム「性暴力被害の現状と被害者支援について」

【日時】平成27年1月14日(水) 14時から16時30分

【場所】大阪府立男女共同参画・青少年センター

【参加者数】222名

【プログラム】

- | | |
|----------------|---|
| 14 時～15 時 | 「性暴力の現状と性暴力救援センター・大阪 SACHICO の取り組み」
加藤治子(特定非営利活動法人性暴力救援センター・大阪 SACHICO 代表) |
| 15 時～16 時 30 分 | 「当事者の視点に立つ支援とは」
中島幸子(特定非営利活動法人レジリエンス代表) |

【参加者からの主な意見】

- ・性暴力被害の現状、支援に対する考え方とバランスの取れたシンポジウムであった。
- ・講師2人の話をもっと時間をかけて聞きたかった。
- ・性暴力救援センター・大阪 SACHICO がどんなところかわかった。
- ・SACHICO の取り組みをもっとみんなに広報すべき。

【シンポジウム等を通して得た成果（効果）と課題】

- ・今年度の内閣府性犯罪モデル事業を実施している県担当者をはじめ、来年度の事業実施を検討している地方公共団体からの参加者も見受けられ、大阪府にとどまらず全国に対する意識啓発につながった。
- ・当日は、遠方から参加した方もあり、関心の高さを実感するとともに、性暴力の現状、性暴力救援センター・大阪SACHICOの存在、取り組みを広く周知できた。
- ・今後ももっと多くの府民に伝えていくことが必要。

- ・具体的な支援方法等についての講演など、より専門的な話も必要で、シリーズで開催するなど、現状を知ってもらうことから具体的な支援についてまで、時間をかけた講演会・勉強会の実施を検討。
- ・運営面では、写真などに写りたくない方へ配慮した席を設けるなどの工夫をしたが、アンケートには、受付で名前を名乗るのもつらいという声や女性被害者だけではなく男性被害者にも配慮が必要といった声も聞かれ、本テーマのイベント実施については留意すべきだと感じた。

【今後の課題】

引き続き、多くの府民に性暴力をはじめとする女性に対する暴力の現状を知ってもらい、あらゆる暴力をなくすとともに、被害者を支援するための啓発が必要であり、今後も内閣府と共催することにより高い波及効果が得られると考える。

将来の選択肢は無限大

(報告)

団体名：大阪府、大阪府男女共同参画推進ネットワーク
おおさか男女共同参画促進プラットフォーム

【開催趣旨・目的】

女性雇用のM字カーブの解消や、女性管理職・技術職等を将来に向け増やすことが必要であり、そのためには、若い世代の男女へ「女性の活躍があらゆる分野で必要とされていること」などを伝え、キャリア形成につなげることが重要である。本シンポジウムでは、中学生・高校生等を対象に、理系ロールモデルの話等を聴き、生き方の多様性について夢を持たせるとともに、技術職、経営者等の実体験を知ることにより、性別に関わりなく、世の中には様々な仕事、生き方があり、多様な選択が可能であることや、将来自分がどのように働きたいか考えるきっかけを提供することにより、若い世代のキャリア形成を支援する。

【シンポジウム等の名称・テーマ】

シンポジウム「将来の選択肢は無限大」

【日時】平成27年2月11日(水) 14時から16時

【場所】イベントスペース「Namba LABI Gate」(ヤマダ電機なんば店4階)

【参加者数】91名

【プログラム】

14時～15時	講演 「宇宙につながる仕事～国際宇宙ステーションのお仕事～」 吉崎 泉(宇宙航空研究開発機構 JAXA 広報部)
15時～16時	パネルディスカッション 「将来の選択肢は無限大」 ファシリテーター 生駒京子(株式会社プロアシスト代表取締役) パネリスト 吉崎 泉(JAXA) 相馬亜里(株式会社キャプテンライン運行管理者) 岸田真由子(ワンゲイン株式会社 営業統括部長)

【参加者からの主な意見】

- ・宇宙など女性が関わるのは困難と考えられていた業界で活躍している女性を見て勇気がわいてきた。
- ・中学1年の娘と参加したが、夢と希望のある仕事についてほしいと思った。
- ・質問がたくさん出てよいと思った。質問したい雰囲気、答え方がとてもやさしくよかった。
- ・自分を伸ばすいい機会になり、得した気分。

【シンポジウム等を通して得た成果(効果)と課題】

- ・参加した中学生・高校生から、多くの質問が出るなど、これからの将来の生き方・仕事につ

いて考えるきっかけにしてもらえた。

- ・会場は、ヤマダ電機株式会社の協力により、なんば店のオープンスペースを利用し、質問が出やすい雰囲気であった。また、なんば店の来客も急遽、参加できる会場であった。

【今後の課題】

引き続き、より多くの中学生・高校生を対象に、性別に関わりなく、世の中には様々な仕事、生き方があり、多様な選択が可能であることや、将来自分がどのように働きたいか考えるきっかけを提供することにより、若い世代のキャリア形成を支援する必要がある。

今回は、様々な講師による働き方のシンポジウムを実施したが、リストラや離婚などのリスクや生涯賃金についての講演の必要性も感じる。

さらに、参加者から結婚して子どもを産み育てながら働き続けることができる国になってほしいとの感想があり、企業向けの啓発事業を検討する必要がある。

また、高校生と一緒に参加した親からの意見で、学校からこのシンポジウムについての案内が来なかったとのこと。教育委員会とさらに連携しPRに努める必要がある。

以上